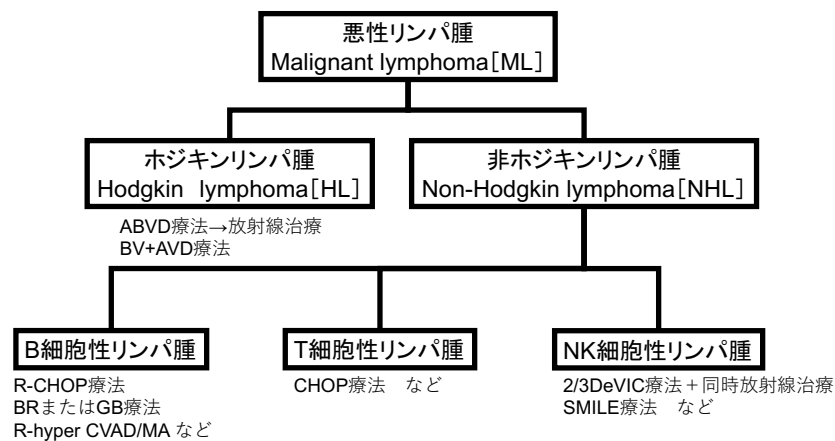


## <悪性リンパ腫について>

リンパ組織は、その中に白血球の一種であるリンパ球が詰まった豆状のリンパ節とそれを結ぶ細い管(リンパ管)よりなりますが、扁桃腺、胸腺、脾臓なども含まれ、全身に分布しています。リンパ組織はリンパ球を中心に免疫をつかさどり、感染やがんに対する防御機能の中心となります。

悪性リンパ腫はこのリンパ組織から発生する悪性腫瘍で、ほとんど全てリンパ球が悪性化したものと考えられています。悪性リンパ腫は、図1のように、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫に分けられ、その割合はおおよそ、ホジキンリンパ腫が10%、非ホジキンリンパ腫が90%といわれています。すなわち悪性リンパ腫といえば、大半が非ホジキンリンパ腫であり、更に非ホジキンリンパ腫はB細胞性リンパ腫、T細胞性リンパ腫、NK/T細胞リンパ腫に細分化されます。

図1 悪性リンパ腫の分類と主な初回治療



ABVD: ドキソルビシン、ブレオマイシン、ビンブラスチン、ダカルバジン、BV+AVD: プレンツキシマブベドチン、ドキソルビシン、ビンブラスチン、ダカルバジン  
R-CHOP: リツキシマブ、サイクロフォスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾン、BR: ペンダムスチン、リツキシマブ、  
GB: オビヌツズマブ、ペンダムスチン、CVAD: サイクロフォスファミド、ビンクリスチン、ドキソルビシン、デキサメタゾン、シタラビン、  
DeVIC: デキサメタゾン、エトポシド、イフォスファミド、カルボプラチン (2/3とは、規定された量の3分の2量)  
SMILE: デキサメタゾン、メソトレキサート、イフォスファミド、L-アスパラギナーゼ、エトポシド

## 悪性リンパ腫の症状

悪性リンパ腫の多くは、首の周りや縦隔(両方の肺の間)、腹腔内(お腹の中)、鼠径部(足のつけ根)を中心としたリンパ節が痛みを伴わず腫れるものですが、時に肝臓、骨髄、肺など全身に広がることもあります。また発熱、びっしょりするくらいの寝汗、急な体重減少、全身の皮膚の発赤、かゆみなどの症状が出る場合もあります。

## 悪性リンパ腫の診断

悪性リンパ腫の診断は、腫れているリンパ節などを取り出して(生検といいます)顕微鏡で調べる病理検査によります。この検査が、今後の治療方針を決定するうえで、最も重要な検査と言えます。正確な病理診断をつけることは、その後の最適な治療方針決定につながります。悪性リンパ腫はその進行具合の速度によって、おおまかに以下のように分類されています。

#### インドレントリンパ腫 (一般に年単位で進行する低悪性度リンパ腫)

##### ➤ B細胞

- 慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫
- リンパ形質細胞性リンパ腫
- 脾辺縁帯リンパ腫
- 粘膜関連リンパ組織型節外性辺縁帯リンパ腫 (MALT リンパ腫)
- 節性辺縁帯リンパ腫
- ろほう性リンパ腫
- マントル細胞リンパ腫

##### ➤ T細胞

- T細胞大型顆粒リンパ球性白血病
- 成人T細胞白血病/リンパ腫 (くすぶり型)
- 菌状息肉症/セザリー症候群
- 原発性皮膚未分化大細胞型リンパ腫

#### アグレッシブリンパ腫 (一般に月単位で進行する中悪性度リンパ腫)

##### ➤ B細胞

- びまん性大細胞型B細胞リンパ腫

##### ➤ T細胞

- 末梢性T細胞リンパ腫・非特定型
- 腸症関連T細胞リンパ腫

- 未分化大細胞リンパ腫
- 肝脾 T 細胞リンパ腫
- 成人 T 細胞白血病/リンパ腫
- 節外性 NK/T 細胞リンパ腫・鼻型
- 血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫

#### 高度アグレッシブリンパ腫（一般に週単位で進行する高悪性度リンパ腫）

##### ➤ B 細胞

- バーキットリンパ腫
- B リンパ芽球性白血病/リンパ腫

##### ➤ T 細胞

- T リンパ芽球性白血病/リンパ腫
- NK リンパ芽球性白血病/リンパ腫

#### 悪性リンパ腫の主な初期治療

悪性リンパ腫の主な初回治療は図 1 にしめた通りです。図 1 は、あくまで標準的なものであり、治療法、薬剤投与量、投与方法などは患者さん個人の状態にあわせて最適なものを選択、調節いたします。治療についての疑問点がある場合は、主治医、担当医、医療スタッフにいつでも遠慮なくご質問ください。

#### 参考文献

- 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版 一般社団法人 日本血液学会 編